

苺の定植後の管理について（NO1）

R8.9

アグリ技研（株）

10～11 月も気温は高温予報

1. 今後も定植後から収穫開始時期までは高温予報

本年も育苗期から猛暑日の連続で、品種により花芽分化も不揃い気味でした。未分化や分化初期での定植もあり出蕾の不揃いや高温による頂果房の小玉果など懸念されます。定植後も下温対策や活着、発根促進を優先して地上部の樹勢を余り強くしない様な管理の水管理や追肥の調整に努めましょう。

2. 活着・発根促進対策について

「定植後 30 日前後で根の環境も決まります」

「定植後の灌水は、株元を中心に少量多回数を行いましょう」

①定植後の発根促進効果に灌水処理の場合（灌水チューブ使用）

◎アミクエ 5～10 k/10a を 5 日置きに灌水処理

②活着と徒長抑制、1 次腋果の分化促進の処理

◎アミクエ 500 倍+PK ゴー2～3000 倍の葉面散布

③蒸散作用促進と生育促進対策

◎カル元気 2～3 kg を 5～7 日置きに灌水処理

2. 第 1 次腋果房（2 番果）分化対策（10 月中旬～）

①定植後芯葉 2.5 枚展開後～

◎P・K ゴー2000 倍で葉面散布（3～5 日毎）に 3 回前後散布

②高温対策と細胞壁の強化（腋果分化対策）

◎カル元気 2～3 kg 又は有機カルトップ 1 kg を 5～7 日置きに灌水処理

* 第 1 次腋果房の花芽分化促進のポイントは

① 被覆資材での日中下温と日長対策（日中の温度を下げて分化促進）

②極端な灌水量の抑制は生育停滞になり収量減となる傾向です。

③PK 肥料の調整（N のコントロール）とカルシウムの施肥。